

# 一刀彫り十二支贈る

## 山江村と球磨村へ 樹齢千年の市房杉

藤田 株

木の文化を発信しながら地域づくりに取り組む藤田株(藤田敷社長、錦町西)は16日、日本遺産群に指定されている市房杉を使った十二支の工芸品と打ち出の小槌を制作し、令和2年7月豪雨で被災した山江村と球磨村に贈った。

昨年7月に球磨川流域を襲った未曾有の水害を受けて、藤田社長は復興のシンボルになればと思ひ立ち、30年かけて収集した日本遺産群指定の貴重な焼物や樹齢千年の市房杉で作った工芸品などを入吉球磨10市町村、球磨地域振興局、各団体へ

贈ることを決めた。10月に寄贈式典を行い、翌11月には五木村に十二支の工芸品と「二重さん焼」が贈られ、今後は月1回のペースで他市町村や団体に届ける。今回は午前10時から錦町西の「人吉神城文化の森」で贈呈式が行



山江村と球磨村に工芸品を贈った藤田社長(中央)

われ、山江村の内山慶治村長、球磨村の松谷

浩二村長と門崎博幸副村長、松田三郎県議、竹田尚史球磨地域振興局長、常楽酒造株の米来健会長が出席。目録を受け取った内

山村長は「この千支を見て、新しい気持ちで頑張りたい」、松谷村長は「今回頂いた物を村の復興につなげていく」と謝辞。

松田県議と米来会長、溝口幸治県議がそれぞれあいさつした後、藤田社長は「人吉球磨が一つになることが一番の願い。水害や新型コロナウイルスで大変だと思いが、それぞれの立場で頑張っていたきたい」と述べた。最後に、竹田局長の音頭で飲料茶で乾杯し、人吉球磨の未来について意見を交わした。

# 五木村に「一壺さん焼」

藤田(株)市房杉十二支工芸品も

藤田(株)（藤田勲社長、錦町西）は先月29日、樹齢千年の市房杉で制作した打ち出の小づちと十二支の工芸品、五木の子守唄の歌詞が刻まれた「一壺さん焼」の3個を五木村に寄贈した。

藤田社長が30年かけて収集した銘木や焼物、伝統工芸品などは「藤田コレクション」と呼ばれ、貴重な品々を多数所有。その一部を一人吉神城文化の

森」で展示している。

7月豪雨で人吉球磨は甚大な被害を受け、藤田社長は復興のシンボルになればと10月に日本遺産構成文化財の一勝地焼や上村焼、市房杉の工芸品、ひとよし名人徳利等を人吉市や球磨村などに寄贈。

今回は「一壺さん焼」を古里の五木村に託したほか、打ち出の小づちと十二支の工芸品は人吉球磨の10市町村に贈ることにした。

贈呈式には木下文二五木村長、球磨郡町村会長の内山慶治山江村長、溝口幸治県議、竹

田尚史球磨地域振興局長が出席。

目録を受け取った木下村長は「貴重な品を



木下村長に目録を手渡す藤田社長(右)

村へ寄贈していただきありがとうございます。先人の思いをつないでいきます」と謝辞。寄贈品は応接室などに飾られるという。

藤田社長は「十二支は枝の高い部分で制作し、五木の子守唄の文が入った一壺さん焼はとても珍しい。人吉球磨の焼物は素晴らしい技術の持ち主が手掛けたもの。五木村にぜひ展示していただきたい」と述べ、溝口県議と内山会長がそれぞれあいさつ。竹田局長の音頭で飲料茶で乾杯した。

# 復興のシンボルに

## 日本遺産構成 関係自治体へ寄贈 藤田(株)



藤田社長から目録贈呈を受ける松谷球磨村長(中)

7月豪雨で被災した人吉球磨の復興を願う、藤田(株)（藤田敷社長、錦町西）は28日、日本遺産の構成文化財である一勝地焼と上村焼、市房杉を発祥の自治体に寄付した。

藤田社長は、30年ほど前から銘木や焼物等の収集を始め、これらの日本遺産構成文化財も多数所有。同社が運営する「人吉神城文化の森」で保管、展示していた。

しかし、7月豪雨で多くの地域が被災。特に人吉市や球磨村の被害は大きく、藤田社長は「黙って見ているだけでは悪化の一途をたどる。人吉球磨10市町村を一つと捉えて一日も早く復旧、発展させなければならぬ」と思い立ち、復興のシンボルになればと貯蔵品の一部を古里に贈ることを決めた。

寄付品は、球磨村に



球磨村に里帰りする一勝地焼

一勝地焼、あさぎり町には上村焼や宮崎精一氏の絵画など、水上村が市房杉千年工芸品、人吉市は「二壺さん焼（五木村）やひとよ

し名入徳利など。市房杉で制作した打ち出の小槌や十二支の工芸品、一勝地焼の「おちよこ」セットは人吉球磨10市町村や球磨地域振興局、学習院大学などにそれぞれ寄贈した。

同日は各市町村長や県議、各団体の代表者ら53人が出席。施設の見学の後、午前11時から「お食事処神城」で寄贈式典が行われた。

人吉、あさぎり、水上、球磨の4市町村長が目録を受け取り、村

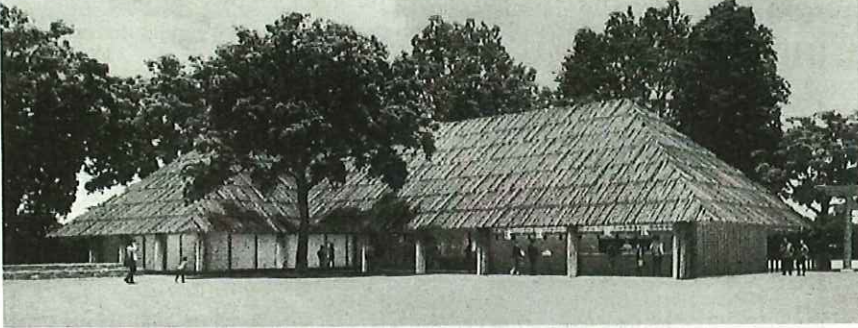
内全域が甚大な被害を受けた球磨村の松谷浩一村長は「藤田社長が数十年かけて収集した作品をいただき、ありがとうございます。これが村の復興につなげ、一勝地焼の再開を夢見て頑張ると謝辞。

藤田社長は、55年間取り組んできた木の文化の発信や地域づくりの活動を振り返り、「約30年で収集した物が復興に生かされる。これを機に人吉球磨が一つになっていってほしい」と述べた。

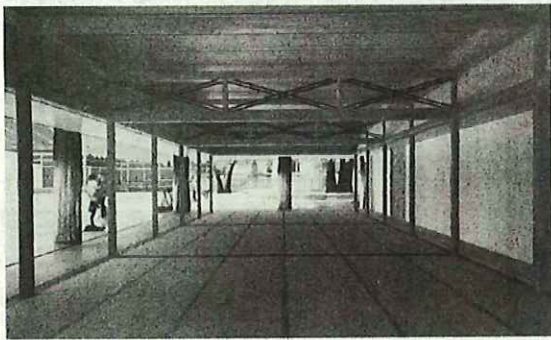
# 復興の象徴 建設着手

## 青井阿蘇神社 国宝記念館 令和4年春完成目指す

国宝・青井阿蘇神社(入吉市青井町)で15日、参集殿、社務所、ギヤラリーを一つにした仮称「青井の杜国宝記念館」の起工式が行われた。令和2年7月豪雨で同神社や周辺が被災した中、復興のシンボルとして同4年春の完成を目指す。



国宝記念館の完成予想図(隈研吾建築都市設計事務所提供)



市房杉が使われる参集殿(隈研吾建築都市設計事務所提供)

起工式と地鎮式は午前10時半から境内の御神木前で行われ、新型コロナウイルス対策で関係者のみ約20人が出席した。

起工式と地鎮式は午前10時半から境内の御神木前で行われ、新型コロナウイルス対策で関係者のみ約20人が出席した。

「後世に残る建物へ」

起工式と地鎮式は午前10時半から境内の御神木前で行われ、新型コロナウイルス対策で関係者のみ約20人が出席した。

市房杉が使われる参集殿(隈研吾建築都市設計事務所提供)

その後、岩下会長の代議で湖上喜勇総代会責任役員が「大災害に見舞われた郷土復興のシンボル、価値あるものとして完成が楽し

「後世に残る建物へ」

起工式と地鎮式は午前10時半から境内の御神木前で行われ、新型コロナウイルス対策で関係者のみ約20人が出席した。

定しており、事業費は約4億円。

建設に向けて、国宝指定十周年奉祝記念事業期成会(岩下博明会長)が募金活動を進め、こし春から建設地となる境内東側にあつた参集殿と職舎を解体。8月に起工式を予定していた。

ところが、7月に豪雨災害が発生。同神社も被災し、無期延期としていたが、期成会は「寄付者や完成を望む人たちに申し訳ない」「復興の象徴につなげよう」と建設に着手した。

隈氏が「初めて訪れた時、茅葺きの美しさに圧倒され、入吉盆地の自然に感銘した。国宝記念館をつくることには私にとってかけがえない意義を多く。全力を尽くして後世に残る、世界に誇れる建物に仕上げたい」と述べ、飲料茶を乾杯した。

福川富司は「こし春が、寄付をした人、完成を待っている人がいる。復興のシンボルにしたい」と話している。

定しており、事業費は約4億円。

建設に向けて、国宝指定十周年奉祝記念事業期成会(岩下博明会長)が募金活動を進め、こし春から建設地となる境内東側にあつた参集殿と職舎を解体。8月に起工式を予定していた。

ところが、7月に豪雨災害が発生。同神社も被災し、無期延期としていたが、期成会は「寄付者や完成を望む人たちに申し訳ない」「復興の象徴につなげよう」と建設に着手した。

隈氏が「初めて訪れた時、茅葺きの美しさに圧倒され、入吉盆地の自然に感銘した。国宝記念館をつくることには私にとってかけがえない意義を多く。全力を尽くして後世に残る、世界に誇れる建物に仕上げたい」と述べ、飲料茶を乾杯した。

福川富司は「こし春が、寄付をした人、完成を待っている人がいる。復興のシンボルにしたい」と話している。

を予定していたが、ギヤラリーに変更。同神社の宝として神輿、太刀などの展示を予定している。

外観は、周囲のかわぶき屋根の社殿群に合わせたデザインを使用。

設計は隈研吾建築都市設計事務所と江尻建築構造設計事務所。施工は岩井工務店、速水工務店、宮原建設による共同企業体が担当。同4年3月の完成を予定している。

「後世に残る建物へ」

起工式と地鎮式は午前10時半から境内の御神木前で行われ、新型コロナウイルス対策で関係者のみ約20人が出席した。

隈氏が「初めて訪れた時、茅葺きの美しさに圧倒され、入吉盆地の自然に感銘した。国宝記念館をつくることには私にとってかけがえない意義を多く。全力を尽くして後世に残る、世界に誇れる建物に仕上げたい」と述べ、飲料茶を乾杯した。

福川富司は「こし春が、寄付をした人、完成を待っている人がいる。復興のシンボルにしたい」と話している。



払い清められた建設予定地

### 産定 遺認 日本加 日追

## 「市房杉」と「やきもの」

### 郡市の構成文化財59件に

人吉球磨日本遺産活用協議会(会長・松岡 日、郡市10市町村が文 「日本遺産」の認定内「ことを明らかにした。



追加された市房杉(上)と人吉球磨のやきもの(写真は「勝地焼」市提供)

変更では、構成文化財に「人吉球磨のやきもの(上村焼・一勝地焼)と「市房杉(水上村)の2件を新規追加し、認定済みの4件の名称を変更。構成文化財の総数は59件となった。

郡市では、平成27年度にストーリー「相良700年が生んだ保守と進取の文化」日本でもっとも豊かな隠れ里「人吉球磨」と構成文化財41件が認定。同29年度にはストーリーの内容変更と、構成文化財に16件の新規追加、4件の名称変更を行った。

同協議会では、さらに構成文化財の見直しと掘り起こしを進めた結果、社寺建築などが多い中でこれまでなかった分野・種別の文化財であり、ストーリーを語る上で重要な構成要素として、ことし1月に新規追加2件と名称変更4件を文化庁に申請した。

追加された「人吉球磨のやきもの」は、上村焼(あさぎ町)や一勝地焼(球磨村)に代表される陶磁器で、相良長每が朝鮮から陶工を招き釉薬陶法が伝わったとされ、作られた陶磁器は現在も都市

各所に残る。

「市房杉」は、お繰さん参りで知られる市房山神宮の参道沿いに並ぶ樹齢1000年ともいわれるスギの大木。46本あり、大きい物で幹回りは8・4センチに達する。

名称変更では、「生善院観音堂(水上村)を「生善院観音堂及び本堂と庫裏」に改めるなど範囲を明確化している。

今年度は、八代市が申請したストーリーなど全国で21件が新規認定となり、認定総数は104件に。県内は人吉球磨、菊池川流域に続いて3件となる。

### 「大変名譽」と松岡市長

松岡市長が会見し、「追加認定を含めた登録は大変名譽なことであり、コロナ禍から復興に転じるための光を見いだしたような思い。これら多くの素晴らしい文化財群が現存することを人吉球磨の魅力や誇りとして再認識し、新たな地域づくりにまい進する」と述べた。

# 市房杉など銘木寄贈

## 藤田(株)が青井阿蘇神社へ

人吉市の青井阿蘇神社で進められている「青井の杜国宝記念館」

(仮称)の建設に役立ててもらおうと、錦町西の藤田(株)（藤田勲代表取締役）は15日、樹齢1000年の市房杉など貴重な銘木を同神社へ寄贈した。

同記念館は、国宝指定10周年に合わせて発足した奉祝記念事業期成会（岩下博明会長）が建設を計画。新国立競技場を手掛ける建築

家の隈研吾氏に設計を依頼し、現在の参集殿

や社務所、職舎を一体化した建物を予定。隈氏と交流が深い藤田代表が、文化事業の一環として寄贈。樹齢800〜1000年の市房杉、国の天然記念物にも指定されている



神事で手を合わせる藤田代表

樹齢400年の狭野杉原木など貴重な木材のほか、市房杉で作った打ち出の小づち、干支の置物も贈った。同日は、同町西の人吉神城文化の森にある屋久杉記念館で神事が行われ、国会議員や県議、市町村長、隈氏、元サッカー日本代表で一般財団法人神城文化の森理事長の藤田俊哉さんら約60人が出席。式典では、同神社の福川義文宮司が藤田代表から目録を受け取り「貴重な銘木を寄贈いただき、ありがとうございます。人吉球磨に資するような立派な建物を造るよう努力します」と謝辞を述べた。

# 世界に木の文化発信

## 青井阿蘇神社国宝記念館に銘木寄贈

### 藤田の藤田勲社長

銘木収集で世界的に知られる藤田（熊本県

球磨郡）の藤田勲社長

はこのほど、青井阿蘇

神社（熊本県人吉市、

福川義文宮司）に建設

される国宝記念館に、

藤田コレクションから

樹齢1000年近い市

房杉の巨木など、銘木

を大量に寄贈した。こ

の国宝記念館は、隈研

吾東京大学教授が設計

を手掛ける。ふんだん

に銘木を使い、日本の

木の文化を世界に発信

していく隈氏の設計理

念に藤田社

長が共鳴

し、大量の

銘木提供を

申し出た。

藤田社長は事業の一

方、30年ほど前から銘

木収集を始めた。現

在、屋久杉丸太・半製

品を収蔵した屋久杉記

念館、地元人吉の千年

杉を収集した市房杉記

念館、木の百貨店など

5つの倉庫を持ち、大

量の銘木を所蔵してい

る。特に世界に類を見

ない屋久杉、市房杉半

製品、内外産銘木床柱

のコレクションは、木

材業界からも垂涎（す

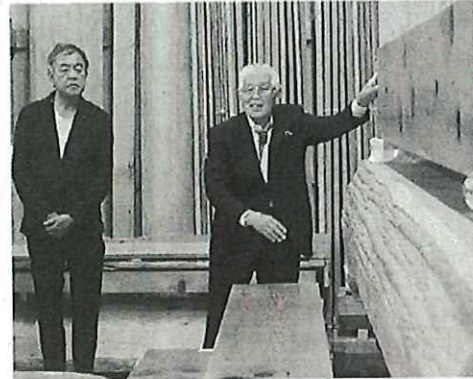
いぜん）の的だ。岐阜

県銘木協同組合などで

も、他の追随を許さな

い高値落札者として知

られる。



藤田社長（右）に説明する隈氏（左）

径2.5、高さ40.5の市房杉（樹齢800〜1000年）、宮崎県高原町狭野神社社木で国天然記念物の狭野杉（同400年）3本、貴重

青井阿蘇神社に新し

く建設される国宝記念

館は、木造平屋建てで

延べ床面積660平方

メートル。参集殿、ギヤラ

リースペース、売店で構

成される。「球磨地方

の民家に見られる鍵屋

造りを採用し、全体を

「L字型にする」（隈氏）

建物で、今年度中の着

工を予定している。

藤田社長が寄贈した

のは、熊本県水上村の

市房山で伐採された直

で高価なサクラ、クロ

ガキ、アララギの原木

など。狭野杉は台風被

害でやむなく伐り倒さ

れたものを藤田社長が

落札した。同材は記念

館正面の柱として、原

木のまま用い、市房杉

は参集殿の柱、天井板

に、クロガキはエント

ランスの扉に、サクラ

は床材に使用する予定

だ。

藤田社長は「人吉、

球磨地域の文化は木の

文化そのものであり、私はその魅力に引かれて30年間、様々な木を収集してきた。このたび、隈氏の熱意に打たれ、多くの銘木を寄贈することを決意した。私の文化事業の集大成

だと思っている。令和という新しい時代を迎え、国宝の神社にふさわしい建物を造り上げていってほしい」と語る。藤田氏は内閣官房の「地域活性化伝道師」にも認定されている。

## 話題

2019年(令和元年)8月2日 金曜日

# 市房山の樹木 2000本寄贈

藤田(株) 阿蘇神社 記念館建設用に

国宝・青井阿蘇神社

に建設予定の「青井の杜 国宝記念館(仮称)」に向けて錦町西の「人吉神城文化の森」を運営する藤田(株)(藤田勲代表取締役)は16日、水上村の市房山にある樹齢65年のスギやヒノキ2000本を同神社に寄贈し

た。

同記念館建設は、国宝指定10周年記念事業として奉祝記念事業期成会(岩下博明会長)が計画。日本遺産人吉球磨アドバイサーで建築家の隈研吾氏に設計を依頼し、老朽化している参集殿や社務所、職舎を一つに集約する。

これを受けて、藤田代表は6月に樹齢1000年の市房杉など貴重な銘木を同神社へ寄贈。今回贈ったのは同社が保有する市房山キャンプ場近くの「市房山源流水名水基地」のスギやヒノキで、同記念館に地元産材を使っ

神事の後、同神社の福川義文宮司が藤田代表から目録を受け取り、「後世に残るような建物に使わせていただく」と謝辞。藤田代表は「市房で育った木々を寄贈できてほっとしている。人吉球磨の将来のために役立



木々に囲まれた名水基地で行われた寄贈式典





〈藤田 勲〉

# 「青井の杜国宝記念館」

建設工事着工おめでとうございます。

■市房杉樹齢千年 ■狭野杉樹齢428年

市房杉(樹齢65年～100年)小杉2028本、ヒノキその他寄贈

人・夢・未来 世界  
**FUJITA 藤田株式会社**

代表取締役社長 藤田 勲 球磨郡錦町大字西字大谷742-52 TEL.0966-26-5277

(さのすぎ)  
**狭野杉**  
 今回寄贈した狭野杉は、慶弔の役に際して薩摩藩主島津義弘公が、重臣新納武蔵守忠元を遣わして狭野神社別当寺徳院の住職宥淳法印と協力し植栽したものと伝えられている。樹齢は428年。

隈研吾建築都市設計事務所代表

**隈 研吾**

(左部写真:下段右から2番目)

学習院大学経済学部  
 教授(マーケティング)経営学博士

**上田 隆徳**

(左部写真:上段右から2番目)

(有)江尻建築構造設計事務所代表

**江尻 憲泰**

(左部写真:下段1番左)



市房杉をご案内



狭野杉原木をご案内